

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人京都教育大学

1 全体評価

京都教育大学は、社会の礎となる教育の役割を深く認識し、学芸についての深い研究と指導とをなし、教養高き人としての知識、情操、態度を養い、併せて教育者として必要な能力を得させることを目的としている。第3期中期目標期間においては、地域に密接して義務教育に関する教員の養成と支援の中心的役割を担いつつ、近畿地域を中心とした広範な地域の教員の養成・支援の一翼を担うため、教育に関する基礎的・実践的研究を進め、京都府・市教育委員会等と連携を深めるとともに、専門的な学識に裏打ちされた実践的指導力を有し現代的教育課題に対応できる教員の養成に加え、現職教員の支援等を通じて地域の教育の発展に貢献すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、既存の教育支援センターと教職キャリア高度化センターを統合し、新たな教職キャリア高度化センターとして改組するとともに、障害者自立支援における就労移行支援プログラムに関する取組を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 「国立大学法人京都教育大学教職大学院移行準備委員会」において、教育学研究科（修士課程）と連合教職実践研究科（専門職学位課程）との新たな教職大学院（専門職学位課程）への移行に関し、教職と教科の高度な専門性及び教育実践力と教育実践に関する研究遂行力を備えた教員の養成を一層推進することを目的として、教育組織、教員組織、カリキュラム等の設計に着手している。（ユニット「教員養成・研修の高度化に対応した大学院教育体制の改革」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 教育創生リージョナルセンター機構の設置

教員の養成と研修を一体的に捉え、これまで以上に現職教員支援の体制を強化することを目的として、既存の教育支援センターと教職キャリア高度化センターを統合し、新たな教職キャリア高度化センターとして改組するとともに、「教育創生リージョナルセンター機構」へ組織整備を行い、地域の教育創生に貢献するために様々な事業を行うこととしている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設・設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 障害者自立支援における就労移行支援プログラムに関する取組

障害者雇用推進の一環として、大学構内の美化整備活動を行うことにより、仕事に対する意欲やコミュニケーション能力を養い、一般就労に向けた支援を行うことを目的として、附属特別支援学校卒業生を大学での実務研修員（環境整備担当員）として雇用する取組を行っている。平成29年度からの実務研修員は、平成31年4月に就職が決まっている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ **障害のある学生への支援**

パソコンを利用したノートテイクを聴覚障害学生が受講するすべての授業に配置（前期8科目24名、後期5科目15名）し、授業内での情報保障を実施している。また、ノートテイクと利用学生の双方を出席対象にした「ノートテイク懇談会」を開催し、個別の要望内容を授業担当教員に周知するなど、きめ細かな支援を実施している。